

# 新 生

令和六年三月 十日印刷  
令和六年三月 二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十六巻 第一号

新 生

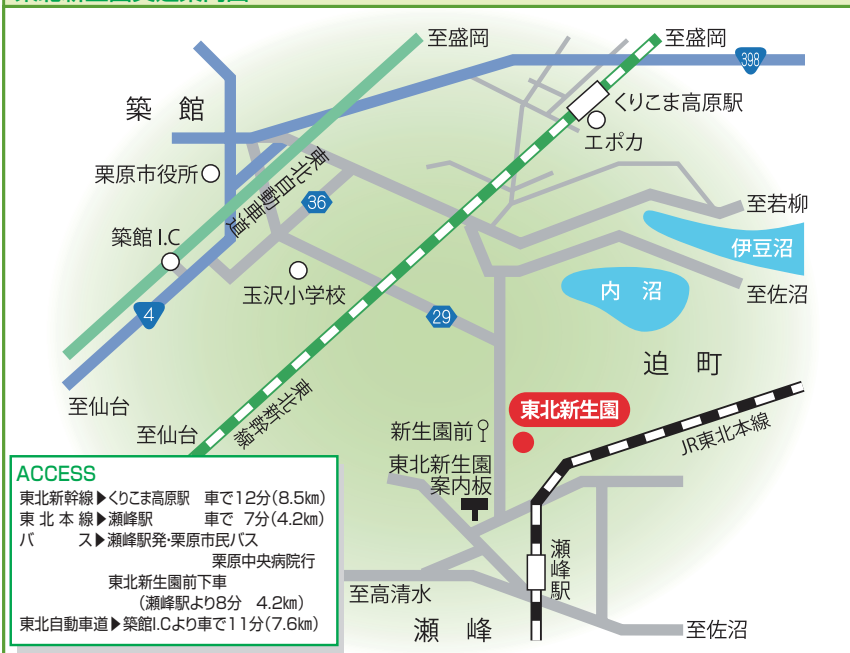
令和六年三月 十日印刷  
令和六年三月 二十日発行

第七十六巻 第一号

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男7名 女19名 計26名
職員定員数	133名(令和5年4月1日現在)
園長	医学博士 横田 隆

## 東北新生園交通案内図



# 大衆舞踊一座「武田姉弟」

— 令和5年11月10日 —



宮城県を中心に活動している武田姉弟さんが来てくれました。多くの入所者の皆さんが参加して下さりとても賑わいました。

## 園内日誌

令和五年 十月〜十二月

令和五年 十月〜十二月 (敬称略)

## 【謝寄贈図書欄】

《十月》  
二十日 セラピー犬とのふれあい

《十一月》  
六日 文化祭  
七〜十日 収穫祭 (抽選会)

《十二月》  
一日 クリスマスイルミネーション点灯式

多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨
東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都
多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨	多磨
池田	池田	池田	池田	池田	池田	池田	池田	池田	池田
恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿	恵比寿
明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園	明楓園
愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛
生田	生田	生田	生田	生田	生田	生田	生田	生田	生田
岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山
長久	長久	長久	長久	長久	長久	長久	長久	長久	長久
島光	島光	島光	島光	島光	島光	島光	島光	島光	島光
大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園	大愛園
香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川	香川
鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島	鹿島
星塚	星塚	星塚	星塚	星塚	星塚	星塚	星塚	星塚	星塚
敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園	敬愛園
青島園	青島園	青島園	青島園	青島園	青島園	青島園	青島園	青島園	青島園
始良野	始良野	始良野	始良野	始良野	始良野	始良野	始良野	始良野	始良野

令和6年3月10日 印刷  
令和6年3月20日 発行

発行 東北新生園楓会(自治会)  
編集 楓会文化部  
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)  
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十六卷第一号……………目次

表紙：「もうすぐ春」

……………撮影 医療社会事業専門職 瀬川 将 広

年頭によせて……………	会 長 久 保 瑛 二……………(2)
退職のご挨拶……………	総 看 護 師 長 佐 藤 育 子……………(5)
お世話になりました……………	看 護 師 佐 々 木 清 子……………(8)
感謝の思い……………	介 護 長 名 生 幹 喜……………(9)
随筆「男鹿半島の旅」……………	斎 藤 照 雄……………(14)

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………	選 者 佐 々 木 洋 一……………(16)
短 歌……………	選 者 皆 川 二 郎……………(18)
俳 句……………	選 者 小 松 温 美……………(20)
川 柳……………	選 者 栗 石 隆 子……………(22)
栄養班だより……………	選 者 栄 養 班……………(24)
笑顔につつまれた文化祭……………	介 護 長 石 川 太 巳 子……………(25)
定年退職を前に……………	看 護 助 手 石 川 有 子……………(29)
新生園での思い出……………	看 護 助 手 主 藤 達 弥……………(32)
四コマ漫画「つよいからだ」……………	「まほこの鏡」……………(34)
園内日誌・謝寄贈図書……………	太 田 凛……………(34)

## 年頭によせて

楓会会長 久保 瑛 二

令和六年の年頭にあたり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は会員の皆様をはじめ、多くの方々の暖かい御指導と御支援を頂き、会務を果たすことが出来ましたことを心より御礼申し上げます。

さて、当園の先行きを考えるとき、今、私どもの会員の平均年齢は既に九十歳を越えて高齢化と不自由度の亢進、寝たきり老人や成人病などの合併症の急増という多くの身近な問題を抱えて、不安と焦燥感に駆られる日々であります。

特にこうした現実の課題とも言うべき将来の対策として、この要望を検討するときに入所者の動向の中では、とみに最近の変貌の一端は不自由者棟などにおける老人問題の環境が年々増加の一途をたどる老人痴呆であります。おそらく各施設においても深刻な状況になりつつあるのではと思うとき、誠に憂慮すべき事態になったものと我々を巡るところの環境の変化に、今

後我々ハンセン病療養所の推移を考察するとき、こうした事態に対応するためにも、また言うまでもなく高齢化現象は様々な形で進み、よく言われることであります。しかし、超高齢化集団に変貌を余儀なくされつつある現状においては、今後における医療施設整備計画、また、介護の内容等について、討議する必要があるのではと思っております。

また、療養所と地域の共生を目指しての構想の一環として、居住者棟のほど近くに千平方メートルの敷地（空き地）へ、物故者を偲ぶ慰霊塔（三重の塔）の建立計画が今現在進められており、完成へと近づいているところです。三重の塔の計画は、ハンセン病で亡くなった方々のみならず、すべての人に開かれた無宗教の「三重の塔」として、生前も亡くなられた後も静穏な風景の中で安らぎを得られるように、昭和十四年以来から御遺骨を納骨堂にてお預かりしてきました。

納骨堂は通称「霊安堂」として古くからの多くの御遺骨をお預かりして参りましたが、此処に来て四季の彩が豊かな高台にありましたが、入所者も高齢になり、お詣りも高齢では無理な話があり、平地との声もあつて誰でも格別の安らぎをとの願いから、場所を考え「旧売店跡地」に「三重の塔」を計画したところです。

逝く人も、遺る人も、多くの入所者の方にもこの場所ならの思いもあるやに伺っております。

末尾になりましたが、令和六年一月一日の石川県能登地方を震源とする地震の影響により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

被災地域の日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。



## 退職のご挨拶

総看護師長 佐藤 育子

令和四年四月から総看護師長として東北新生園に転勤となり、二年間お世話になりました。また、副総看護師長として、平成二十七年四月から二年間お世話にもなりました。この度、令和六年三月三十一日をもって定年退職をすることになりました。同時に国立病院機構での三十九年間の看護師としての仕事も卒業となります。副総看護師長として赴任した当時は、ハンセン病に関する知識も少なく戸惑いながらも入所者始め東北新生園の皆様を支えられ過ぎておりました。広大な敷地内での満開の桜、新緑、紅葉、冬景色等に心癒やされ、入所者自治会（楓会）による春の

観桜会、夏祭りとは花火大会、春秋バス旅行や秋の収穫祭、クリスマスイルミネーション、お正月抽選会等へ参加し元気をもらいました。春の高松宮記念杯ゲートボール大会と秋の寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会では一勝した時の喜びが活力になっていました。そして、再び東北新生園に総看護師長として勤務する機会を頂くことができました。入所者皆様の思いに寄り添い看護職員一丸となつて入所者皆様の生活を支えることができるよう邁進して参りました。

新型コロナウイルス感染症が確認されてからの三年間という長きにわたり法律に基づく感染者及び濃厚接触者の外出自粛や入院措置などによる行動制限、入院は原則感染症指定医療機関、感染者すべてにおいて発症届を保健所に届ける等、経済活動や医療の逼迫・麻痺へとつながりました。この三年間は、強制隔離や偏見差別を経験した入所者の皆様に

とっては過去を思い出す辛い期間だったと思います。総看護師長として勤務したこの二年間は、看護管理をする上で新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止が背景にあり、入所者並びに職員の皆様の理解と協力がなければ乗り越えることができないことが多々ありました。心から感謝申し上げます。

そして、猛威を奮った新型コロナウイルス感染症も、オミクロン株が主流になってからは発生初期と比較して重症度が低下し、これまでも、その特徴に応じて柔軟に対策を見直ししてきましたが、陽性者への自宅待機や入院勧告といった強力な措置を行うほど生命及び健康に重大な影響を与える恐れがある状態とは考えられないと政府が判断し、「五類」に変更することとなりました。新型コロナウイルス対策も、令和五年三月十三日以降マスクは個人の判断となり、五月八日をもって新型コロナウイルス感染症の取り扱いが感染症法上で二類感染症から五類感染症に移行され

企画し開催させていただきました。入所者皆様の笑顔や元気な姿を見ることができ嬉しく思っております。新型コロナウイルス陽性入所者は、二類感染症指定期間はハンセン病療養所十三園の中でも当園だけが唯一入所者の陽性発生がありませんでした。しかし、五類感染症移行後、三名の入所者が陽性となりましたが重症化せず回復され胸を撫で下ろしておりますが、新型コロナウイルス感染症の勢いは収まる心配はなく感染対策の継続はまだ必要です。

令和六年の幕開けは、元旦には東日本大震災を彷彿させる能登半島地震、二日には日本航空と海上保安庁の航空機衝突事故と心を痛めるニュースで始まりました。令和六年の干支である甲辰（きのえたつ）は、「変革」や「激動」の年と言われ、時代が動く年でこれまでの努力が実って夢が叶いやすい年とも言い換えられるそうです。また、「春の日差しが、あまねく成長を助く年」と言われ、春の暖か

ました。世の中の流れは規制緩和へと移行しておりますが、新型コロナウイルスは多くの高齢者の命を奪い続ける恐ろしい病気であることには変わりありません。そこで、感染対策を継続しながら入所者皆様の願いや想いを実現するための支援として「個別支援」を開始しました。入所者の皆様が毎日の生活の中で何を楽しみにしているのかを情報収集し、希望が叶えられるように各部署と連携を取りながら、ライフサポート看護師長が中心となり個別旅行支援を企画・運営致しました。他部署と連携をとりながら、入所者十四名延べ十件の個別支援を行うことができました。思い出の場所を巡ったり、風景を眺めて癒されたり、おいしいものを食べたりと望みを叶えることで、参加した入所者の皆様からは「楽しかった、満足を得られた。」と言って頂き嬉しく思っております。また、個別支援だけでなく寮友と共に楽しい時間を過ごしていただけのように、運動会・夏祭り・文化祭なども

い日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、これまで陰になっていた部分にも日が当たり、報われ、大きな成長を遂げる年とも言われるそうです。幕開けは、自然災害や事故等と辛いスタートではありますが、春の暖かい日差しがすべてに降り注がれ、復興、再起へと繋がることと思われれます。

私が総看護師長として赴任した令和四年は、四十二名だった入所者数は現在二十六名となり寂しい限りです。皆様との様々な思い出が浮かんできて書き尽くせない想いです。定年退職前のこの期間を東北新生園の入所者の皆様の看護に携わることができたことは、貴重な経験として感謝し、大切にしていきたいと思っております。最後になりますが、入所者の皆様、並びに職員の皆様にはこれからも健康に留意され、健やかに過ごされますことを心から願っております。大変お世話になりました。

## お世話になりました

看護師 佐々木 清子

私は平成三十一年からお世話になり、早五年の歳月が流れました。

東北新生園は、看護学生の時の友人が最後の学生で、入所者の皆様のことを、まるで家族のように話していたので、ここで仕事をするのがとても楽しみでした。初めての勤務の時、ある入所者の方に声を掛けられ「マスクを取って、顔を見せて。」と言われ「やさしいお顔ね。よろしく。」と笑顔で話されたことで、緊張の糸が切れたことを思い出します。

入所者の皆様は、ハンセン病のことを知らない私に、沢山のことを教えてくださいまし

た。病気のことや予防法のこと。家族のこと、

ここに入所した時の辛い過去のことを細やかに伝えてくれました。日々毎日が新鮮で、入所者の皆様との関わりが私にとってとても大切な日々でした。一関から車で通っていることを話すと、「気をつけて帰りなさい。」といつも声を掛けていただきました。入所者の皆様の優しさにどっぷり甘えさせていただいた歳月でした。新生園で働いたこの五年間は、私の大切な宝物になりました。ここでの学びを今後の人生に活用していきたいと思えます。入所者の皆様・職員の皆様五年間大変お世話になりました。これからもお体を大切に過ごしてください。ありがとうございました。

## 感謝の思い

介護長 名生 幹喜

平成六年十二月のある日の午後、グレー下の作業服を着た私は、会社の車に名札を置き、履歴書を片手に持って車から降りました。そのまま東北新生園の玄関より入り、本館事務所に声を掛けました。「こちらで職員の募集があると聞いてきたのですが。」すると、

人事担当の方が来て、私の履歴書を受け取り「〇〇日〇〇時に来てください。」と話され、入職試験を受けることになりました。試験はクリスマス頃だったと思います。年が明けて一月四日賃金職員で採用との連絡が入り「七日に園に来てください、詳しい説明をします。」と話されました。

当時、製造業で働いていた私は、バブル景

気が下火になりこの先について同僚と、やはり医療や福祉系の仕事の方が良いのではないかと話をしていました。その頃、会社の大姉様（おば様）方々が「東北新生園で職員募集しているらしいから、誰ちゃんいいんじゃない。」と話しているのを小耳に挟み、入園者のお世話するのは男性でも良いのではない、入ってしまえば仕事を教わりながら勉強すればよいと思ったので、看護助手として申し込み試験を受けました。

前職の引継ぎがあったため、平成七年二月一日より東北新生園の看護助手の一員となり働き始めました。そして、今年度還暦になり、迎えた令和六年一月で二十九年勤め上げ、定年退職が一年延長になり、定年で三十年勤める事になります。我が人生の半分は、東北新生園の皆様方に人として育てられました。共に過ごせた事に、改めて感謝致します、

「ありがとうございます。」

私は、介護についての知識は無かったので、書店へ行き一番薄い介護の本を買いました。介護のホントの入門的なものでした。当然仕事に対する不安は消えませんでした。

勤務先は、軽中度その他の入所者の方々が生活していた不自由者棟の、栗駒・楓・戸伊摩・松風・北斗の五つの寮を担当している栗駒センターでした。現在はリフォームされた北斗寮が残っていますが、その北斗寮の前にある、さくら公園・さくらホール・ホール前駐車場に建っていました。ちなみに、現在の第1メープルケアセンターの所には、軽中重度の入所者の方々が主に生活していた泉・寿寮とセンター、そして、第2メープルケアセンターのところには、夫婦の方々が生活していた高砂寮のセンターが建っていて、現在も建っている中重特重の入所者の方々が生活していた山鳩・明峰寮、増築の西明峰寮が不自由者棟と

してありました。また、一般寮は、何棟か残っていますが、更地になり桜の木が植えてある場所に沢山建っていました。

さて、仕事は諸先輩方や入所者の方々よりご指導やアドバイスを頂きました。勿論、自分でも、事有る毎に勉強をするようにして、日々の仕事をしながら、徐々に覚え慣れていきました。仕事は、食事の準備・入所者の方から依頼された料理（補食）作成や居室センター内外の清掃環境整備、一部入浴中の介助、点眼・軟膏塗布・坐薬挿入・薬の仕分けと名前付け等、家庭での看護介護でした。現在は、看護師が増員され行わなくなったものもあります。

そうして働き始め、冬から春になった頃、大変な依頼が舞い込んできました。「観桜会」行事での「カラオケ発表会」への出演依頼でした。「え〜マジっすか。新生会館のステーションですか。」入所者の方々のカラオケ好きが

集まり「新生みちのく会」が主に中心に行っていました。当然、断る事は出来ず、周りからは「新人は仕方ないのだ」と笑っていたことが思い出されます。所詮、他人事ですから。私は、色々考えながら歌を練習して、手には十手を持ち、歌のサビには銭を投げ（子ども銀行の小銭に糸を付け、投げた後にステージ客席に散らからないように巻き取りました）「銭形平次」を歌いました。会場は盛り上がり、カラオケ会会長（厳格な方）から一言あるかと内心ビクビクして、ステージから降りると「かつて、このような事をした人はいない。」と喜んで頂けました。この後に、出演や司会の依頼が来るようになってしまったのです。発表会後には、他センター・一般寮の入所者の方々に名前を覚えて頂き、挨拶をする「おー平次か」と声を掛けて頂けるようになりました。その頃のことは、よく覚えています。先日食堂で、当時の映像を私の居ないときに

見たようで、看護師長をはじめ勤務していたスタッフ、入所者の方々が、私の容姿について今とのギャップがあることに驚いていたそうです（笑笑）。

もうひとつ印象に残っているのが、初めての盲人会旅行への付き添いです。カラオケ発表会後、暖かくなり初夏を迎える頃だったと思います。自分の勤務センターではない、夫婦寮の全盲の方の付き添い依頼でした。なぜ？私？勿論断ることは出来ませんでした。仕事の合間に高砂センターへ行き、付き添う方の居室へ当該師長と一緒に挨拶へ伺いました。旦那さんは目が見える方で、付き添い依頼をされた方は奥さんの方でした。「はじめまして、名生といいます。今年の二月から栗駒センターでお世話になっています。この度は、不慣れですが、ご迷惑を掛けないように努めますので宜しくお願いします。」とお二人へ挨拶をしました。すると奥さんから「銭



各センター協同作品



各居室の入口に飾られた鬼



2024辰年



〈ある入所者さんの作品〉  
動物の中身はすべて松ぼっくりを使用。制作期間3ヶ月。  
目を引く作品です♪



形平次さんか、アレ良かったよ、面白かった。」自分の目で見ていたかのような感じに話されました。「大丈夫、見えないのは慣れているから、心配はしないで。」と私の不安を取り除くようなお言葉を頂き、ホッと肩の力が抜けました。

私が驚き印象に残っているのは、旅行は十和田湖への日帰りバス旅行で、道中出来るだけ、景色や周りの様子を伝えようと、一生懸命に話しかけながら行きました（加減をすることをまだ知らなかったのです）。目的地に着き食事やトイレを他の付き添いの先輩方に手伝いフォローしてもらいながら行きました。

驚きは最後のお土産の買い物です。目が見えないので土産品について、細かく説明をしていきました。それを聞いて、「じゃ〜これを三十個、次これも三十個、そっちとそっちは二十個ずつ。」と、次々と買っていきます。私は驚きました。「え〜こんなに大丈夫なのですか。」「大丈夫だよ。」と笑いながら答え

ていました。周りを見ると、似たような感じで積み上げられたお土産箱がどんどん無くなりバスに積み込まれていきました。今で言う「爆買い」の光景がこれでした（苦笑）。これが東北新生園で働き始めた頃の出来事です。これ以降、春秋のバス旅行・県人会旅行・長生会。ピクニック・白鳥見学等への付き添いでの買い物には驚かなくなりました。

入職当時の印象深い出来事ですが、この他にもカラオケ発表会をはじめ運動会・夏祭り花火大会・野菜菊盆栽品評会・慰問関係・抽選会・センター毎の季節の行事等、そして、元気で過ごされていた入所者の方々の日々の楽しい出来事が思い出されます。定年を迎えるまで残り一年、まだまだ東北新生園の入所者の方々、職員の方々と楽しく過ごしたいと思っています。とにかく、感謝・感謝・感謝です。もう少し私とお付き合いをお願いします。楽しく日々を過ごせるように、自分に努めていきます。宜しくお願いします。

「男鹿半島の旅」

齋藤照雄

私は友に誘われ男鹿半島の旅に。

築館から一迫、鳴子、そして山形と宮城の境の堺田を通り、吹浦で昼食。吹浦の荒波で揉まれた岩に仏像三十二体が彫られていて、大変だったろうと思った。

それから、国道七号線から分かれ鳥海山六合へ向かい、展望台から眺めた飛鳥が素晴らしかった。

秋田県側、象潟は昔、海だったが地震によって隆起した、今は、にかほ市と地名が変わったそう。そこから秋田市で一服。

いた。皆でビールで乾杯した後、おかげがほとんど運ばれて、おかげだけで十八種類もあり、ビールとおかずで腹いっぱいになったが、あきたこまちを炊いたご飯を食べ満腹になって寝室へ。何やら話しているうちに眠りについた。

朝は五時起床。六時に朝餉。フロントから荷物を出してもらい、お土産を買って車のトランクに積み込んでもらった。

リーダーが「色々お世話になって、ありがとうございます。」と私達も御礼を述べた。宿を後にして寒風山へ上った。なまはげが右と左に門番のように立っていた。中央に階段があり、上が回転式の展望台で日本海と八郎潟を眺望できた。

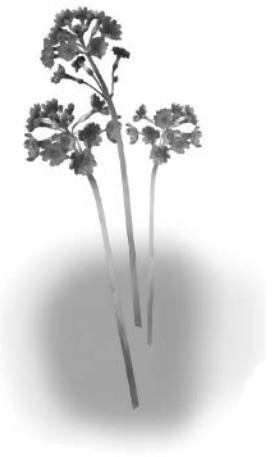
寒風山を下山して、増産に励んだ大潟村を通り西馬音内を通り、湯田温泉を羨まし気に眺め、岩手の錦秋湖を通り、国道4号線に入

そして、本格的な男鹿半島の旅に。一方、秋田の港からはハタハタ漁の漁船が先を争うようにして出漁。荒れた日が大漁になると言われているが、私たちは晴れた穏やかな日が良い。

しばし走って畠兼荘に着く。運転手と宿屋の主人が何やら話をして、駐車OKということになった。そこから徒歩で二十mほど行くと先に広がる日本海に突き出た入道崎がある。入道崎の景観はとても鮮やかだった。それを目裏に焼き付けて畠兼荘に。下はお土産売り場、二階左手は食堂兼休憩室、右手は寝室となっている。

それから、フロントに荷物を預け、再び運転手と宿屋の主人が何やら話をして、食堂に。運転手が話してくれたが「秋田県の里帰りでもお世話になっているところだ、主人とはツーカーの仲である」と心持を渡して

り水沢、前沢、一関、金成、築館を通り新生園へ。お礼を述べ、分かれ分かれになり、男鹿半島の長い旅が終わった。



詩

佐々木 洋一選

◇ 入 選 ◇

《風》

斎藤 照雄

風よ

この度は元旦から五日までの話をしよう  
短い期間だがとても印象に残った

風は天まですいすいと揚つて

ニコニコ顔

楽しい初笑いとなった

これも取りも直さず

風のおかげと感謝しております

と言って喜んだ

こんな良い日が二、三、四日と続いた

しかし五日目の朝から猛吹雪

雪がズンズン積もった

風は部屋の片隅でうずくまっていた

私を下から覗くと

頬を涙で濡らしていた

ごめんなあと言うのと

あなたのせいじゃないから

心配しないでね

風のこととは悪く言わないでね

と言って頬を涙で濡らし

風に感謝していた

【選評】

《風》

斎藤 照雄

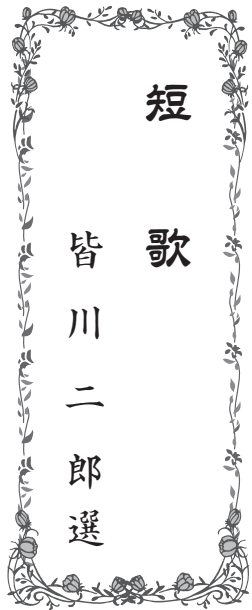
仲間のような風と風と作者の関係や擬人化がと  
ても面白い。

元日から五日までと断っているが、もう少し話を  
膨らませると、童話や寓話としても読めるよう  
に思う。



短歌

皆川二郎選



方でけがれなく爽やかに感じられて身が引き締まる思いになる。

耐え忍ぶ凍える朝の白絨毯紅葉の赤よ初雪  
被る  
歌多 眠寝子

【選評】

冷たく寒く凍えるような朝に、一面に白絨毯を敷き詰めたような初雪が降り、真っ赤なみじ、紅葉に降り積もっている。初雪が降り積もった状態を白絨毯と比喻し、真っ赤な紅葉に被るように積もっている情景を良く表現し、キリリと心が引き締まってくる一首である。

◇ 入選 ◇

まっさらな眩しき雪に目を細め見やる  
軒先千し柿並ぶ  
芽 生

【選評】

全く新しく眩しい新雪に眼を細め、軒先に視線を向けると、干し柿が並んで吊るされているのが見える。爽やかな冬の光景が見える一首である。新雪が一面を被っている情景は厳しく感じられる、一

芽 生

歩く人走る人など事始め温もる日差し  
誘いだされて

【選評】

新春を迎えての事始めに、歩く人も、走る人も温もる日差しに誘い出されるように動き出している。新たな気分で新春の事始めを行う人々の様子が表現されて、作者の感性に同感した一首である。

歌多 眠寝子

夕暮れに幼児背負う田んぼ道手を引く  
母の横顔を見る  
静けさや雪降る朝の渡り鳥羽を休めて  
何を夢見る

◇ 佳作 ◇

恥じらいと期待を胸に手を振りて桜舞  
う日の入学式に  
ねこ撫でて心ほっこり癒やされる温も  
り嬉し湯たんぽ子猫  
隅取りも敵わぬ心地蒸しタオル夜更か  
し控え気を配る日々  
芽 生





俳句

小松温美選

◇入選◇

両隣笑顔で初日迎えけり  
齋藤照雄

【選評】 隣人と仲良く元旦を迎える様子が浮かぶ。互いに賀詞を交わし、初日を待って拜む。皆の笑顔を初日が染めてあたたかい。

一献を年越しそばで締めくくり  
齋藤照雄

【選評】 大晦日、今年を振り返りながらお酒を飲む。もう年が変わる。年越しそばをいただき、気持ちを締めくくるのだ。

新芽摘み苦味味わうばっけ味噌  
芽生

【選評】 苦味と香りを楽しめるふき味噌を手作り。中七で読み手にもその春の味わいが伝わってくる。

◇佳作◇

うららかやうたた寝もよし試歩もよし  
防空壕跡地に夏草茫茫と  
朝顔に水やり私も清しい  
故郷の甘柿今頃熟れるころ  
齋藤照雄

芽生

きらきらと玉響揺れる蜘蛛の糸  
香る梅淡く漂う庭の内  
土筆伸び背比べする土手の原  
肌掠め過ぎる北風あとわずか

菊水

暖冬の一夜の寒波で皆参る

❀❀新生園の春❀❀



ブッソウゲ



山茶花



デンドロビウム・ノビル



福寿草

(撮影：遊佐)

川柳

雫石隆子選

◇入選◇

《天位》

斎藤照雄

俺の身を病やたらに蝕めり

【選評】

照雄さんの長い闘病が、この一句に込められています。中七の「やたら」は、病への苛立ちであり、どんなご苦労があつたか、読む者の心を締め付けます。この先の安寧を祈らずにいられません。

《地位》

千

歩

お正月炬燵の中も渋滞に

【選評】

今年は元旦の能登半島地震にびっくりです。何も元旦からナマズも騒がなくてもよいのでは、と思いましたが、正月に集まった皆の足。炬燵いつぱいの足にも正月の賑わい、めでたさを感じます。

《人位》

小林喫茶

渋滞も抜け道熟知議員さん

【選評】

昨年から派閥パーティーの裏金問題ですが、どうやら決着しそうな検察側です。この告発でも不起訴になった議員たちは、まさに抜

け道を知っていたのかも知れませんがね。

北帰行見送る今朝の空の青

千

歩

◇佳作◇

大平尚拓

やかん置き白い息吐き手をかぎす  
気をつけるそう思えども虫歯あり

長沼蓮花

物価高それでも食卓にぎやかに  
今年こそ推しに会うため徳を積み  
物価高いつ時忘れるお正月

斎藤照雄

裏町のひなびた酒場俺は好き  
暮らすため女将飲み屋で汗流し

小林喫茶

凍みる日々染めて広がる支援の輪  
報道の戦争地震フェイクなら

## 出張 栄養班 だより



12月25日 クリスマス

1月行事食  
カード

### しんせい茶房活動報告（1月10～12日）



1月の正月行事にしんせい茶房を開催しました。各センターを回り、たこ焼き・プリン・大福・飲み物を提供しました。



## 笑顔につつまれた文化祭

介護長 石川 太巳子

三大合同レクリエーションの今年最後の行事！文化祭が令和五年十一月六日から九日の四日間の日程で開催されました。

さくらホールを会場とし、十一月六日「演芸発表」七日からの三日間は「展示発表」の二部構成で、会場からの生中継も行いました。金髪の三つ編み女子高生風の男性職員が進行を務めました。園長先生より開会のあいさつをいただいた後、第一メーブルケアセンター一階の入所者と職員による朝ドラでおなじみの「東京ブギウギ」の曲に合わせ、スカーフを被り、サンダラス、ワンピース姿で踊る姿に、会場からは「あ



そこで踊っている人誰だべ？」「資格好は○○さんだよね」「男の人もスカートはいで踊りっこもうまいごだ」など、顔が隠れている踊り子に、みんな興味深々でした。また、車椅子に乗りパワフルに踊っている入所者の姿に、会場から拍手喝采が送られました。

続いて、二番目は第一メーブル三階・一般寮の入所者と職員による合奏です。後ろ姿は昔の高校生を感じさせる学生服姿の男性職員が指揮に合わせ、「虫の声」「いい湯だな」の曲を、タンバリンや鈴、マラカスを使って演奏しました。観客席からも「バンバトバンバンバン：♪」と合いの手が入り、会場全体が和やかな雰囲気につつまれました。



続いて三番目は、リハビリ科による手品です。本当はマジシャンじゃないの？と思うくらい鮮やかに流れるような手さばきでの手品でした。みんな瞬きせず真剣に見入っている姿がとても印象的でした。



続いて四番目は二階の入所者と職員の皆さんによる、日本の昔話を代表する「桃太郎」の寸劇です。シャキーンという音が会場内に

響き渡り、桃から可愛い金ピカの桃太郎が生まれました。「もーもたるさん♪ももたるさん♪」と、入所者と一緒に桃太郎の歌を歌ったり、

Tシャツ姿で息を切らしながら、ちょっとだけずれたりしていたけど、若者に負けないくらいの迫力で踊っていて会場中が笑いと拍手が鳴りやみませんでした。



鬼ヶ島での鬼退治の時には、なるこを鳴らしながら桃太郎を応援し、鬼をやつつけた祝いの踊りに、やんやんやと盛り上がりました。

そして、最後の演目五番目は、師長会と事務長による若者に人気の曲をお揃いのピンク



展示発表では、入所者が作成した川柳・句集・パズル・陶芸・はり絵・工作品など、思いがこもった素晴らしい作品に感嘆しながら鑑賞されました。





今回、文化祭を開催するにあたり、自治会の皆様はじめ職員の皆様のご協力、そして笑顔で参加くださった入所者の皆さん、会場や居室で拍手をくださった全ての皆さんに心か

## 定年退職を前に

看護助手 石川 有子

私の生まれ育った所は迫町新田で、新生園から近い所にあります。小学生の頃には何度か園内にあった猿小屋を見に来た事もありましたが、新生園の事はあまり知らずに過ごしました。そんな私が縁あってこの東北新生園に就職させて頂いたのは、昭和六十三年四月の事でした。

最初は総看護師長室付の看護助手として採用になりました。業務は一言で言えばメッセンジャー・事務、雑用と言ったところですが、その中身は実に多種多様でした。勤務場所は管理棟二階、毎日その二階全ての掃除から始まり、看護課各部署の勤務や休暇・管理日誌

ら感謝いたします。本当にありがとうございました。  
これからも楽しんで頂けるようなレクリエーションを皆さんと共に作っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。



の整理、医局関係の雑務、事務所と看護課、診療科へのメッセンジャー業務も行っていました。又、百二十人を超えるスタッフの白衣等の洗濯の運搬・配布も毎日の業務でした。他にも医療用消耗品の在庫管理・払出しや、五十種類以上の印刷物の作成・印刷・配布等、当時はコピー機もパソコンも各職場にはもちろん、総看護師長室にも無かった為、事務所に行つて色々な資料の作成や印刷も行っていました。今では考えられない事ですね。

介護員になって不自由者棟で勤務するようになった時、あの時作つて印刷した物がこんなふうに使われているのだと分かりました。ただ今では印刷でなく、コピーや外部業者の印刷になっていました。

他にも業務は色々、毎日二階への階段を何度も上つたり下りたりと忙しい毎日でした。その為太い足が益々たくましくなりました。その当時、園には四百人以上の入所者の方

がいらつしゃいしましたが、あまり接する機会はなく、一日に数回通る治療棟で挨拶をする程度でした。治療棟廊下の長椅子には毎日大勢の入所者の方々が診察待ちをしていました。私が挨拶をしながら通ると「あの人誰だ?」、「ほら、総師長さんのところに新しく入った人だよ」と。そんな会話は三年以上経つても聞こえてきました。時には話し掛けてくださる方もいらつしゃいしましたが、一言二言、言葉を交わす程度でした。

それでも当時入所者の方が運営していた売店や温室には時々行く機会があり、話をさせて頂く事もありました。又、園の運動会で一緒に係をしていた入所者の方々も毎年同じメンバーだった為、顔馴染になりました。

介護員として不自由者棟の勤務になった時、私の事を覚えていてくださって声を掛けて頂いた時は本当に嬉しく思いました。

平成二十三年四月、介護員として不自由者

棟勤務になりました。東日本大震災の後です。最初の勤務場所は山鳩センターでした。

私は介護の仕事は初めてで戸惑うことばかりでした。食事・入浴・排泄の介助等、先輩から一つ一つ教えて頂くと言うよりは、見て聞いて覚えていくという毎日でした。山鳩センターは不自由度が高く、盲人の方も多くいらつしゃいました。入所者の方々それぞれの不自由度や個性に合わせた介護をする事の大切さと同時に難しさを感じる毎日でした。

先輩スタッフはもちろん、入所者の方々にも沢山迷惑を掛け、又、沢山助けて頂きました。「慌てなくて良いよ」「やっているうちに覚えていくから」と、優しい言葉を掛けて頂き、嬉しくも申し訳なく思っていました。

入所者の方の中に、手書きの名簿を作ったスタッフにプレゼントしている方がいました。とてもユーモアのある方でしたが、広告の裏紙を利用しノート状に束ねて、寮名・部屋番

号・氏名・生年月日を書き、その全てを覚えているのです。その記憶力には驚きました。私も手作り名簿を頂きました。

その後、第二メール、第一メール・二階、三階と勤務し、現在はメールアドレスセンター一階に勤務しています。

介護員として勤務し始めた頃、先輩スタッフから言われた言葉で今でも気をつけている事があります。「不自由な方を看るのは当然だけど、自分で出来ると思っている方こそ注意して看なければいけない」と。お互い『一人で出来る!大丈夫!』という過信が、思わぬ事故に繋がるとい事です。本当に大事な教えでした。

私は来年三月に定年を迎えます。ここまで何とか勤めてこられたのも皆様のお陰です。本当にありがとうございます。定年まであと一年、これからもどうぞよろしくお願い致します。



## 新生園での思い出

看護助手 主藤 達 弥

平成二年四月二日に福祉室の作業手として採用されました。仕事内容は多種多様なもので園内広域に渡り、草刈り芝刈り木の伐採、年間行事の準備、郵便物の配達、秋になれば山の草刈り、冬になれば出勤したらすぐに除雪作業をしたりと大変な作業もありましたが、そのおかげで今では仕事上いろんな場面で活かされていると思います。

カラオケ愛好会と職員の発表会では、歌はうまい下手関係なく新しく新生園に採用になった方を入所者の皆さんに紹介する場所でした。私もご指名を受け、今流行の曲や入所者の方が知っている曲を考え「北国の春」を

入れをもらったりと、とても楽しそうに話していて新生園はゲートボールを通して交流の場になったような気がします。

介護員になって数年後、入所者の男性の話を知ると、「夕方ご飯を食べて暗くなってもゲートボール場で練習してたね」とも言われ、現役引退しても指のタコを見せられた時はビックリしました。沖縄まで行ってゲートボールを楽しんだと言っていて話してくれたことが印象的でした。

あれは忘れもしない二〇一一年、東日本大震災の次の年に介護員として配属されました。介護員の仕事は初めてで毎日が勉強の連続で、心に余裕がなく入所者の方に笑顔で接していなかったように思います。しばらくすると入所者の方から話を聞かされ、こちらのことを心配され励まされたことは忘れません。介護員になってこの数年間、少しでも入所者の方のお役に立てたと思います。

選曲して歌いました。スーツ姿に長靴を履いて雰囲気を出し歌ったのですが、途中歌詞カードを持って歌っていたのにもかかわらず歌を間違え、当時カラオケ会社の牧さんの「ステージが暗いから電気付ける」と声がしてステージの照明が全点灯され、余計に緊張して歌えなかったという今でこそ笑える思い出があり、今も鮮明にいい思い出として残っています。当時のカラオケ大会は、舞踊や今年流行の曲にのせて踊ったりと華やかで一大イベントだったように思いました。カラオケ愛好会の会員様お疲れ様でした。

それからゲートボール大会は、近隣友好ゲートボール大会が年二回と参加チームの多さで交通整理するほど盛り上がりつつありました。当時の入所者の方は技術もすごく、毎回トロフィーをもらいゲートボール場の休憩室にいっぱい置かれていたのを覚えています。大会では近隣チームの方と話をしたり、差し

来年の定年退職する年を迎えられたのは、入所者の皆様スタッフの皆様ののおかげです。皆様ありがとうございました。



# 四コマまんが

作・太田 凜

まほうの鏡

かがみよかがみ  
世界一美しいのは誰？

それは  
あなたです♡

世界一モテるのは  
だあれ？

それは  
あなたです♡

目玉焼きには  
ソース？しょうゆ？

それは  
あなたです♡

やっぱり  
安物はダメね

それは  
あなたもです

つよいからだ

バリバリ  
働くために

強い体を  
つくるぞ!!

ぎゃあ  
ホキ

仕事  
休みます…

ケがしたので